

社会・地理歴史・公民における 目標・内容等の在り方について



小・中・高等学校における目標・内容等の在り方に関する現状と課題

1. 系統的・体系的な整理に関する課題

- 今次改訂において、小・中・高の系統性を高め授業改善が進められる中、次のような好影響も出ている。
 - ①社会科の学習が好き（小中）
 - ②社会科の学習が生活や社会の役に立つ（小中高）
 - ③授業がわかりやすい（小中高） ※資料2 p13-15
- 一方、依然として、断片的な知識の習得に偏している傾向があり、主要や問いや知識及び技能に関する統合的な理解の獲得を意識した授業改善が道半ばであること、そうした問題の背景として、高校入試改革等が道半ばであること、教科書の分量等が多すぎることを指摘する声もある。
- こうした成果と課題を踏まえつつ、児童生徒の発達段階等を踏まえ、より一層、児童生徒の資質能力を育成するため、目標・内容・方法の系統的な整理や分野・科目の体系的な整理、必要な精選を図る必要。

2. 社会情勢の変化に伴う課題

- 社会変化に対応した内容の見直しの必要性が高まっている。
 - ①グローバルな協調や競争に関する課題、内なる国際化
 - ②地球環境の変化やそれに伴う自然災害の頻発化・激甚化
 - ③生成AIなどデジタル技術の飛躍的な発展
 - ④人口減少・高齢化の加速がもたらす持続可能性の危機
 - ⑤こども基本法の制定と社会参画意識をめぐる課題（3. 参照）
 - ⑥民主主義を取り巻く状況の変化

3. 社会参画意識に関する課題

- 社会参画意識を育成する観点から、各学校種・各分野、科目の学習が、有機的な関連を持って効果的に寄与できていないのではないか、社会との関わりを実感できる学習活動が不十分ではないかといった課題も指摘されている。

<現状>

- 社会の一員としてのよりよい社会づくりの意識に課題
- 若者の投票率は30%程度と他の世代と比べて低い
- 18歳の当事者意識は上昇傾向だが海外と比較して低水準
※資料2 p16-18

- また、「こども基本法」や成年年齢の18歳引き下げを踏まえた主権者に関する教育の在り方が求められている。

<現状>

- 若い世代ほどSNSの情報が投票先に影響を与えたと回答
- オンラインにおける改ざんや誤情報、ディープフェイクによる選挙への影響に懸念
- 一方、オンライン情報の信頼性を確認している者は極めて少ない
※資料2 p19-23



小・中・高等学校における目標・内容等の在り方に関する論点

1. 目標等の在り方

- 論点整理における「学びに向かう力・人間性等」や「見方・考え方」の再整理を踏まえ、社会科等が目指す資質・能力（新しい「見方・考え方」も含め）を改めて整理する必要。
- その際、今次学習指導要領の下での実践により、一定の成果が出ていることを踏まえ、継続性にも配慮して検討することが適当。

<本日の議題（２）【p9-15参照】>

- 目標の柱書を端的にわかりやすく示す観点や現代における社会科等の役割を踏まえどう見直すか
- 「学びに向かう力・人間性等」や「見方・考え方」の新しい整理を踏まえたそれらの示し方をどのようにするか
- 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」をどう見直すか
- 社会科等における「見方・考え方」をどう考えるか。また、社会・地理歴史・公民の全体を通した「見方・考え方」について、必要性も含め、どう考えるか

2. 内容等の在り方

（１）グローバルな協調・競争や、内なる国際化、自然災害の頻発化・激甚化、生成AIをはじめとするデジタル技術の発展、人口減少がもたらす社会の構造変化、こども基本法の制定と社会参画意識の向上、民主主義を取り巻く状況変化などこの間の大きな変化を踏まえ、持続可能な社会の創り手として求められる力をより一層育成する必要。このため、実行可能性にも留意しながら、以下のような観点から内容等のアップデートを検討してはどうか。

- ①グローバルな協調や競争に関する世界共通の課題
- ②社会構造の変化に伴う我が国特有の課題
- ③その他

※上記の検討とあわせて、今後全体としての精選等を検討していく必要。

※上記の内容（例えば、情報や科学技術、少子高齢化等）の検討にあたっては、他教科との連携が必要。

<本日の議題（１）【p4参照】>

- 今次改訂以降の社会の変動を踏まえ、どのように教育内容の改善・充実を図るべきか

（２）こうした内容の充実と並行して、児童生徒自身が社会との関わり方を実感する学習などを行うことにより、社会参画意識が高まるよう、例えば次のような学習を充実させることとしてはどうか。

- ①社会的事象等について調べまとめる技能を高める学習
- ②現実社会から学習課題を捉える地域調査等
- ③学校外の施設（図書館、博物館、資料館）・人材との連携（デジタルコンテンツを含む）
- ④主権者として、児童生徒の意見表明を推進する活動（模擬議会、模擬選挙等）（*）
- ⑤その他

<本日の議題（１）【p5参照】>

- 上記、内容等の改善・充実や各学校における指導上の課題や実態等も踏まえ、どのように指導方法の改善・充実を図るべきか

※ 社会参画意識を涵養するため、社会科を中心に他教科（特に、特別活動や総合的な学習・探究の時間など）との連携の在り方についても検討が必要。（*）

*今後、主権者教育の充実の在り方を議論する際に検討。

3. 上記 1、2 を踏まえた内容等の系統的・体系的な整理

- 上記 1、2 を踏まえた小・中・高等学校における内容等を系統的・体系的に整理。（その際、児童生徒の生活実態及び発達段階も配慮）

*第 2 回での議論も踏まえ、第 3 回で検討。

4. その他

※「中核的な概念」等については、総則・評価特別部会での議論を踏まえ、「小・中・高等学校における内容等の系統的・体系的な整理」に関する議論を踏まえ、後日、検討。

2. 社会・地理歴史・公民における内容等の在り方について

(1) ①グローバルな協調や競争に関する世界共通の課題等(例)

<国際情勢の変化、気候変動や自然災害とその対応、AI等の技術革新>

- 現代の日本と世界について、日本の経済の発展とグローバル化する世界までは扱っているが、前回改訂時以降、国際情勢の変化や気候変動、AI等の技術革新が急速に進展。【小・中学校、高等学校】
- 自然災害からの復旧や復興について、国や地方公共団体の働きを関連づけた学習が必ずしもできていない。【小学校】
- グローバル化の歴史や民主主義社会の形成に関わる内容項目を扱っているが、近現代の歴史を踏まえた現代的な諸課題や歴史的経緯を踏まえた「現代の日本の諸課題の探究」「地球世界の課題」の探究の場面で十分に生かされていない場合も見られる。【高等学校・歴史総合／日本史探究／世界史探究】

(1) ②社会構造の変化に伴う我が国特有の課題等(例)

<人口減少社会>

- 現状の小学校の学習では、市の様子の移り変わりを扱う中(第3学年)で、市の少子高齢化に触れることとなっているが、国全体での少子高齢化について扱う内容となっていない。【小学校】
- 中学校の地理的分野においては、「日本の様々な地域」の学習の性質上、学校の実態等を踏まえ、人口減少社会を取り上げることが可能ではあるが、必ず取り上げる内容とはなっていない。【中学校】

<地域社会の在り方の変化>

- 地域社会の在り方に関する内容は、例えば第3学年(4)「市の様子の移り変わり」、第4学年(3)「自然災害から人々を守る活動」、(5)「県内の特色ある地域の様子」、第6学年(1)「国や地方公共団体の政治の働き」などが考えられるが、地域社会の変化に対応した内容とする必要があるのではないかと。【小学校】
- 防災の学習は、学校の創意工夫により具体的な地域の実情に応じて主題を設定し、学習することができる内容構成となっているが、一般的な知識の獲得に留まる事例が見られる。【中学校・地理的分野】

(1) ③その他

- 以上の記載事項以外に扱うべき課題はないか。

(2) ①社会的事象等について調べまとめる技能を高める学習に関する課題等 (例)

- 多様な立場からの様々な情報が急激に増加する現在の情報化社会の中で、自らの考察や意見形成、他者との議論などの根拠たりえる情報の吟味や活用の方法の獲得が喫緊の課題。

【小・中・高等学校】

(社会的事象等について調べまとめる技能)

- ・ 情報を収集する技能 (手段を考えて課題解決に必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能)
- ・ 情報を読み取る技能 (収集した情報を社会的な見方・考え方に沿って読み取る技能)
- ・ 情報をまとめる技能 (読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能)

※上記の社会的事象等について調べまとめる技能についてまとめた小・中学校社会編、高等学校地理歴史・公民「解説」p152-153、186-187、364-365、174-175参照

(2) ②現実社会から学習課題を捉える地域調査等に関する課題等 (例)

- 地域調査については、小学校と比較して、中学校、高等学校における実施率が著しく低い状況がある。【中学校、高等学校】

<中学校>

- ・ 地域調査等が取り組まれていないことから、生徒が地域や社会の状況について、科学的に調査する手法が理解できていない。

<高等学校>

- ・ 地域調査等があまり実施されておらず、実体験を伴った体験が不足しており、生徒が自身の生活空間との関わりを踏まえ、現実社会の課題を見いだしたり、解決に向けての多様な意見と出会ったり、それらを踏まえて涵養される社会の参画に向けた意識を形成する機会があまり確保できていない。

※上記の課題については、実現可能性を確保する方策の検討も必要

(2) ③学校外の施設・人材との連携に関する課題等 (例)

- コロナ禍以降、地域施設や地域人材の活用が必ずしも十分に活用されていない実態がある。【中学校、高等学校】

- デジタル化された資料についての学校内での活用や、学校外の諸機関との連携は十分に進んでいない現状が見られる。
【小学校、中学校、高等学校】

(2) ④主権者として、児童生徒の意見表明を推進する活動に関する課題等 (例)

※今後、主権者教育の充実の在り方を議論する際に検討。

(2) ⑤その他

- 以上の記載事項以外に扱うべき課題はないか。

(参考) 社会的事象等について調べままとめる技能

技能の例（小・中・高等学校）		
収集する技能	をな手 取社段 集会を す的考 る事え 技能象て 等課に 題関解 す決る に情必 報要	【1】調査活動を通して ○野外調査活動 ・調査の観点（数，量，配置等）に基づいて，現地の様子や実物を観察し情報を集める ・景観のスケッチや写真撮影等を通して観察し，情報を集める ・地図を現地に持って行き，現地との対応関係を観察し，情報を集める ○社会調査活動 ・行政機関や事業者，地域住民等を対象に聞き取り調査，アンケート調査などを行い，情報を集める 【2】諸資料を通して ○資料の種類 ・地図（様々な種類の地図）や地球儀から，位置関係や形状，分布，面積，記載内容などの情報を集める ・年表から，出来事やその時期，推移などの情報を集める ・統計（表やグラフ）から傾向や変化などの情報を集める ・新聞，図書や文書，音声，画像（動画，静止画），現物資料などから様々な情報を集める ○その他 ・模擬体験などの体験活動を通して人々の仕事などに関する情報を集める ・博物館や郷土資料館等の施設，学校図書館や公共図書館，コンピュータなどを活用して映像，読み物や紀行文，旅行経験者の体験記など様々な情報を集める ・コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して，目的に応じて様々な情報を集める 【3】情報手段の特性や情報の正しさに留意して ・資料の表題，出典，年代，作成者などを確認し，その信頼性を踏まえつつ情報を集める ・情報手段の特性に留意して情報を集める ・情報発信者の意図，発信過程などに留意して情報を集める
読み取る技能	読見収 み方集 取した る考た 技能情 報方を に社 治会 つ的 てな	【1】情報全体の傾向性を踏まえて ・位置や分布，広がり，形状などの全体的な傾向を読み取る ・量やその変化，区分や移動などの全体的な傾向を読み取る ・博物館や郷土資料館等の展示品目の配列から，展示テーマの趣旨を読み取る 【2】必要な情報を選んで ○事実を正確に読み取る ・形状，色，数，種類，大きさ，名称などに関する情報を読み取る ・方位，記号，高さ，区分などを読み取る（地図） ・年号や時期，前後関係などを読み取る（年表） ○有用な情報を選んで読み取る ・学習上の課題の解決につながる情報を読み取る ・諸情報の中から，目的に応じた情報を選別して読み取る ○信頼できる情報について読み取る 【3】複数の情報を見比べたり結び付けたりして ・異なる情報を見比べ（時期や範囲の異なる地域の様子など）たり，結び付け（地形条件と土地利用の様子など）たりして読み取る ・同一の事象に関する異種の資料（グラフと文章など）の情報を見比べたり結び付けたりして読み取る ・同種の資料における異なる表現（複数の地図，複数のグラフ，複数の新聞など）を見比べたり結び付けたりして読み取る 【4】資料の特性に留意して ・地図の主題や示された情報の種類を踏まえて読み取る ・歴史資料の作成目的，作成時期，作成者を踏まえて読み取る ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る
まとめる技能	ま課読 と題み め解取 る決っ 技能た 向情 け報 てを	【1】基礎資料として ・聞き取って自分のメモにまとめる ・地図上にドットでまとめる ・数値情報をグラフに転換する（雨温図など） 【2】分類・整理して ・項目やカテゴリーなどに整理してまとめる ・順序や因果関係などで整理して年表にまとめる ・位置や方位，範囲などで整理して白地図上にまとめる ・相互関係を整理して図（イメージマップやフローチャートなど）にまとめる ・情報機器を用いて，デジタル化した情報を統合したり，編集したりしてまとめる 【3】情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して ・効果的な形式でまとめる ・主題に沿ってまとめる ・レイアウトを工夫してまとめる ・表などの数値で示された情報を地図等に変換する

1. 見方・考え方を含む目標の柱書きの示し方と改善の方向性

【現行】各教科等の目標の柱書（例：中学校国語）

言葉による見方・考え方を働かせ（**見方・考え方**）、言語活動を通して（**学習過程**）、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力（**資質・能力の趣旨**）を次のとおり育成することを目指す

【現行の解説】見方・考え方の記述

「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」

<現行の記述ぶりの課題>

- 現在、各教科等の目標の柱書には、①見方・考え方、②教科に特徴的な活動、③資質・能力の趣旨が記載されており、冗長で分かりにくいとの指摘。一方、特に「見方・考え方」の具体は解説に落とされており、併せて読まないといけない。

<論点整理で示されたこと>

- 論点整理では、「見方・考え方」を、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核に焦点化した上で、その具体を、解説ではなく学習指導要領本体に位置付ける方向性を示している
- また、論点整理では、「見方・考え方」の意義について、「教科固有の様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになることで、徐々に資質・能力の育成を導く」といった観点だけでなく、「よりよい社会や幸福な人生に繋げる」とも位置付けており、学校教育のみならず、その後の人生でも豊かに働くことを視野に入れている

分かりやすく、使いやすいを目指す上で

- 特定の学校種・教科で育成したい資質・能力の趣旨等を端的に表す目標の柱書に、卒業後まで視野に入れた見方・考え方まで含めて書き下すと焦点が定まらなくなる
- 目標の柱書は、育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示すべきであり、見方・考え方は、目標直下に別途欄を設け記載してはどうか

2. 1.を踏まえた書きぶり（イメージ）

（目標）

● ● する資質・能力（**資質・能力の趣旨**）について、● ● することなどを通して（**学習過程**）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

（見方・考え方）

● ● （当該教科で扱う事象や対象）を● ● （当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、● ● （当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

（見方・考え方に含める要素）

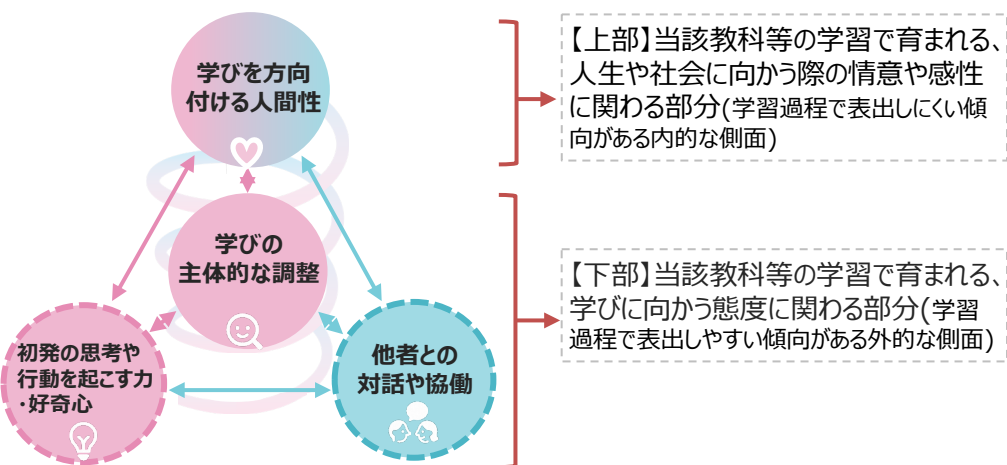
- 見方・考え方については、以下のような要素を含めることを基本に、各教科等の特質に応じて検討してはどうか
 - ① 当該教科等が扱う事象や対象
 - ② 当該教科固有の物事を捉える視点
 - ③ 当該教科固有の考え方や判断の仕方
- これらの要素を示す事により、教師が児童生徒の学習・指導を構想する際に「教科の本質を外していないか」を確かめられるものとなっているかという視点を大切にすることが重要ではないか

（見方・考え方の書きぶりに共通する留意事項）

- これまで各教科等の見方・考え方の書きぶりで示していた各教科等の深まりの鍵を示す部分は、構造化により示す中核的な概念等を通じて示すこととしているため、新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示すことを基本としてはどうか
- 当該教科等を学ぶ本質的な意義の中核をわかりやすく示す観点からは、経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述となっているかという視点を重視して示し方を検討してはどうか（学習・指導を通じて、最終的に児童生徒が意識できるかという点も留意）

1. 論点整理で示された方向性及び企画特別部会での議論

- 論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」について、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく示す観点から、下記の4つの要素により整理する方向性が示された
- 企画特別部会における議論の過程では、「学びに向かう力・人間性等」が単によりよい知の獲得に向けた力としてのみ捉えられてはならず、学習したことを踏まえて人生や社会に向かう際の情意・感性に係る側面も重視すべきとの強い意見があった



- また、論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」の学習評価に関し、個人内評価を基本とした上で、学びに向かう態度に関わる下部の3要素については、学習評価において、「思考・判断・表現」の過程で特に表出した場合には「○」をつける方向で検討するとされている
- 「学びに向かう力・人間性等」は、学習指導要領の「内容」に原則として記載がなく、学習評価に当たっては教科等の「目標」を踏まえて行うこととなるため、そうした点も踏まえた「目標」の書きぶりが重要

※ 現行、各教科等において育成する「学びに向かう力・人間性等」は、個別の学習内容に応じて異なることが想定されにくいため、原則として各教科等の「目標」水準でのみ記載されている。こうした性質は、今回の論点整理に伴って変わるものではない。

2. 1. を踏まえた目標における書きぶり

- 1. を踏まえると、「学びに向かう力・人間性等」の目標については、全ての要素を個別に盛り込もうとすることで冗長となることを避けつつ、以下の2つの要素をバランス良く含めることとしてはどうか

① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度について、教科固有の学習過程を踏まえた言葉で示す
(現行の例：自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度(中・理科))
→ 学びに向かう態度に係る3つの要素を踏まえた見直し

② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性を示す
(現行の例：自然を愛する心情(小・理科)、明るく豊かな生活を営む態度(中・体育)など)

- 一方、現行でも、複数分野を有する社会科など、多くの内容が盛り込まれ目標の書きぶりが複雑な教科もある中、分かりやすく使いやすい学習指導要領を目指す上では、今回の見直しで一層複雑となることは避ける必要
- こうしたことを踏まえ、目標については、表形式となることも踏まえ、箇条書きも利用して分かりやすく構造化することを可能としてはどうか(この点は知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の目標も同様)

【小学校】目標等の在り方について（イメージ）

現行の記載

<小学校学習指導要領>

【小学校社会科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

学びに向かう力・人間性等

社会的事象について，よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

<小学校学習指導要領解説>【社会的事象の見方・考え方】

社会的事象を，位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること

改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

【小学校社会科の目標】

※赤字は追記案。その他の色は語順入れ替え。

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕組みや働き，地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに，様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考えたり，社会に見られる課題を把握して，その解決に向けて見通しを立て，考えたことを確認しながら社会への関わり方を選択・判断したりする力，考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

学びに向かう力・人間性等

社会的事象について，よりよい社会を考え見通しを立てたり，自らの学びを振り返りながら主体的に追究し，他者と関わりながら問題解決しようとする態度を養うとともに，多角的な思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情，地域社会の一員としての自覚，我が国の国土と歴史に対する愛情，我が国の将来を担う国民としての自覚，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

【見方・考え方】

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会的事象を，位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること

【中学校】目標等の在り方について（イメージ）

現行の記載

<中学校学習指導要領>

【中学校社会科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

学びに向かう力・人間性等

社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

改善案（現行ベースのたたき台）

✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

【中学校社会科の目標】

※赤字は追記案。その他の色は語順入れ替え。

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けた展望をもち、自らの考察過程を省察しつつ選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力、を養う。

学びに向かう力・人間性等

社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的に追究し、人々と協働的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

※中学校社会科においては、上記に加えて各分野の目標があり、その在り方についても検討が必要。

現行の記載

<中学校学習指導要領解説>

(地理的分野)

【社会的事象の地理的な見方・考え方】

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること

(歴史的分野)

【社会的事象の地理的な見方・考え方】

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること

(公民的分野)

【現代社会の見方・考え方】

社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること

改善案（現行ベースのたたき台）

（前ページのつづき）

【見方・考え方】

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること

【見方・考え方】

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること

【見方・考え方】

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること

【高等学校】目標等の在り方について（地理歴史科イメージ）

現行の記載

<高等学校学習指導要領>

【高等学校地理歴史科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

学びに向かう力・人間性等

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

改善案（現行ベースのたたき台）

- ✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

【高等学校地理歴史科の目標】 ※赤字は追記案。その他の色は語順入れ替え。

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けた展望をもち、自らの考察過程を省察しつつ構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

学びに向かう力・人間性等

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を見だし、自らの学びを振り返りながら主体的に追究し、人々と協働的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

現行の記載

<高等学校学習指導要領解説>

●地理総合、地理探究

【社会的事象の地理的な見方・考え方】

社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること

●歴史総合、日本史探究、世界史探究

【社会的事象の歴史的な見方・考え方】

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること

改善案（現行ベースのたたき台）

（前ページのつづき）

【見方・考え方】

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること

【見方・考え方】

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること

【高等学校】目標等の在り方について（公民科イメージ）

現行の記載

<高等学校学習指導要領>

【高等学校公民科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、**現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して**、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理，政治，経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに，諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

現代の諸課題について，事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，解決に向けて公正に判断したりする力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

学びに向かう力・人間性等

よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，人間としての在り方生き方についての自覚や，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める

改善案（現行ベースのたたき台）

- ✓ 以下は、現行の記載を基に総則・評価特別部会の方針を当てはめた「たたき台」であり、修正すべき点がないか検討する必要

【高等学校公民科の目標】

※赤字は追記案。その他の色は語順入れ替え。

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、**現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して**次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理，政治，経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに，諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

現代の諸課題について，事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，解決に向けた**展望をもち、自らの考察過程を省察しつつ**公正に判断したりする力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

学びに向かう力・人間性等

よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を**見だし、自らの学びを振り返りながら**主体的に**追究し、人々と協働的に**解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，人間としての在り方生き方についての自覚や，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

現行の記載

<高等学校学習指導要領解説>

● 公共【人間と社会の在り方についての見方・考え方】

社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること

● 倫理【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】

社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること

● 政治・経済【社会の在り方についての見方・考え方】

社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること

改善案（現行ベースのたたき台）

（前ページのつづき）

【見方・考え方】

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること

【見方・考え方】

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること

【見方・考え方】

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること

(参考) 現行学習指導要領における「見方・考え方」の全体像

【小学校】

● 社会科

【社会的事象の見方・考え方】

社会的事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること

<新しい「見方・考え方」のイメージ> (10/14 総則・評価特別部会 資料1-1 p3より)

- (当該教科で扱う事象や対象) を
- (当該教科固有の物事を捉える視点) の視点から捉え (に着目して捉え)、
- (当該教科固有の考え方や判断の仕方) すること。

【中学校】

(地理的分野)

【社会的事象の地理的な見方・考え方】

社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること

(歴史的分野)

【社会的事象の歴史的な見方・考え方】

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること

(公民的分野)

【現代社会の見方・考え方】

社会的事象を政治、法、経済などに関わる多様な視点 (概念や理論など) に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること

【高等学校】

● 地理総合、地理探究

【社会的事象の地理的な見方・考え方】

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること

● 歴史総合、日本史探究、世界史探究

【社会的事象の歴史的な見方・考え方】

社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり事象同士を因果関係などで関連付けたりすること

● 公共

【人間と社会の在り方についての見方・考え方】

社会的事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点 (概念や理論など) に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること

● 倫理

【人間としての在り方生き方についての見方・考え方】

社会的事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点 (概念や理論など) に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること

● 政治・経済

【社会の在り方についての見方・考え方】

社会的事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点 (概念や理論など) に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること